

免震装置向け生産体制を強化

川金ホールディングス（埼玉県川口市、鈴木信吉社長）は、子会社の光陽精機（茨城県筑西市）の本社工場に約10億円を投資し、免震装置向けの生産体制を強化する。主力だった大型建設機械向けの油圧シリンダー製造ラインを修正し、成長が見込まれる免震・制振ダンパーなど建築・土木向け製品の製造にも注力。2026年度中に稼働する計画だ。

今回の投資は、免震装置の需要が本格回復することを見越したもの。現

川金ホールディングス

在、土木・建築の現場では人手不足や資材価格の高騰により工期の延期や発注控えが相次ぎ、設備の需要が伸び悩む。一方老朽化したインフラの更新や地震への備えなど中長期的にはニーズがある。鈴木社長は「仕事が少ない今だからこそ将来に向けた準備が重要」と説明する。さらに老朽化した光陽精機本社社屋の建て替え工事を実施しており25年内に完成する計画だ。

川金HDは免震関連の事業強化を進めている。

免震装置を手がける中核子会社・川金コアテック（埼玉県川口市）は、約30億円を投じて茨城県結城市の茨城工場に橋桁を支える橋梁用支承や建物を支える建築向けの免震装置の新生産棟を増設。27年度の稼働を予定し、光陽精機の再編とあわせてHD全体で免震装置の供給体制強化を図る。

川金HDの25年3月期売上高は約450億円。27年3月期に24年度比11%増の売上高約500億円に拡大する目標だ。

子会社・光陽精機に10億円投資



光陽精機の本社外観